

日白山山行記録



目的地	日白山	期 日	平成20年3月16日(日)
山行人	笠原正雄、伴場ちず子、五十嵐宏之	特 記	巻機山、谷川山系、苗場山とその先の山と好展望：終日快晴

地点名	時刻	記 事
与 板	3:40 発	石打から一般道、朝弁調達。5:30 二居大沢山荘で2人と合流。帰り車1台駐車。
二居峠入口	7:05 発	もう1台で移動。壺足スタートも2~3分でアウト。スノーシュー、ワカンを履く。
二居峠東屋	7:50~7:55	微風。東の薄雲で直射日光は無い。直進してすぐに尾根に上がる。踏み跡あり。
送電線鉄塔下	8:25~8:35	平標、仙ノ倉が見える。日焼止めを塗る。Tよりハーブ茶を頂く。
壺足歩行	8:55	先行登高者あり。林縁に一部巡視路が露出している。雪が少し固くなった。
スノーシュー	9:20	ブナ林間緩登で再度スノーシューを履く。林を抜ければ良く晴れて快適歩行。
東谷山頂	10:00~10:15	幕営跡1ヶ所あり。もう1つの幕営ペアはテトミカさんで朝食中。一緒に記念撮影。Hからバナナを貰う。歩き出しは軟雪となって壺足で尾根を急降下する。
スノーシュー	10:40	登り尾根の途中でスノーシューを履く。Hはどんどん先行していく。
日 白 山	11:00 着	数人隊が先へ進む下山準備をしていた。上山歩行中姿を見なかったので、地王堂川方向からのピストンだろうか。やがて出発して行った。スコップで円形テーブルを作りランチタイム。360度遮るものは無い。巻機山、谷川連峰、苗場山から佐武流白砂と絶景が広がる。二王子岳からの飯豊の景観に勝るとも劣らない。
下山開始	12:30 発	単独山スキーが上がって来てドテツと横たわる。二居俣ノ頭方向に下る。
標高1516m鞍部	12:50	スキー跡が頭に登っているが、そちらには行かず、右の林に降りるトレースに従い、所々でシリセードをしながら下る。急斜面もあるが軟らかい雪で問題無い。
標高点1132付近	1:15	緩やかな気分の良い尾根を下る。地王堂川右岸は急傾斜で雪崩れている。
杉林を横切る	1:20	ここを抜けるとグレンデのような開けた緩斜面に。10分後、再度杉林を横切る。
スノーシュー	1:35	急降下の途中で脱いだものを、ぬかるようになって再び履く。晴れて暖かい。
左岸から右岸へ	2:00	地王堂川に沿うように進路を取り、2~3つ目の堰の法面を強引に降りて雪で埋まった川を渡る。この際Hのワカンがはずれ雪の中に見失ってしまった。
松手山の三叉路	2:25	右岸に上がったのち林道に出て、ここに。松手山への道には橋が架かっている。
除雪最終地点	2:35	昨日日白山、今日二居俣ノ頭と言う単独山スキーが降りて来た。
大沢山荘	2:40 着	僅かの間、舗装道を歩き到着。帰り車で二居峠入口へ移動。Hと別れる。
帰 宅	与板 5:35 着	二居のBの知り合いの民宿で風呂を貰い、お茶をご馳走になる。埼玉まで帰る彼女を湯沢駅まで送り帰路に着く。眠気が差し、2度SAに入る。

昨春同時期、平標山の強風撤退の際、東谷山まで往復した。そして今回、この山に向かう機を得た。Bとの約束だったが、Bの知人の強力メンバーHも加わることになり、とても心強く歩くことが出来た。日白山だけを指すのであれば下山でのルートのピストンの方が短い。しかし、東谷山経由の方が、雪庇の尾根登りは景観に優れ、広尾根の林間歩きは気分が良い。快晴に恵まれ、万太郎山を始め、昨年集中した歩いた谷川連峰の絶景を楽しむことが出来た。



